

令和2年度 江別市立病院 決算概要

▼令和2年度 決算概要

収益は、新型コロナウイルス感染症の影響で外来患者数が著しく減少したものの、入院患者数が前年度を上回ったことにより、病院事業収益全体では前年度から約3億1,000万円の増収。

費用は、感染症対応に伴う手当などにより給与費が増加したものの、診療材料や医薬品の価格削減に取り組むことで材料費が大きく減少し、病院事業費全体で、前年度から約5,400万円の減少となりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延という経験したことがない事態のなか、市民にとって必要な医療を守るため、感染症対策を行いながら日々の診療を継続し、市立病院としての役割を果たすべく取り組みました。

▼経営再建への取り組み

市立病院の最重要課題である診療体制の整備について

は、医師招聘を担う専任部門として経営推進監と市立病院顧問を設置し、大学医局を複数回訪問して医師の派遣要請を継続的に実施したほか、民間病院への働きかけや人材紹介会社の活用などに継続して取り組みました。その結果、4月に消化器内科医1名、3月に副院長格の医療監として内科医1名が着任し、内科体制の強化につながりました。

このほか、医師の負担軽減を図るため、大学医局からの夜間・休日における日当直の出張応援を拡充するとともに、医師事務作業補助者の体制を強化し、対応業務の拡大に取り組んでいます。

また、令和5年度での収支均衡を実現すべく、集中改革期間において取り組む主要な項目の各種取り組みを開始しました。主な取り組みは、「稼動病床規模の適正化」「看護体制の抜本的見直し」「院長を中心とするガバナンスの強化」などです。

さらに、病院全体で経営再建に向け、看護相談室やもの忘れ外来の設置、院外処方への進捗や健診センターの設置などの取り組みを進めました。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響が著しい中において、**【詳細】5151** 市立病院管理課財務係 着実に進めてまいります。

令和2年度決算と前年度との比較

区分	令和2年度	令和元年度	比較増減
病院事業収益	57億5,100万円	54億4,100万円	3億1,000万円
病院事業費用	64億6,800万円	65億2,200万円	△5,400万円
単年度純損益	△7億1,700万円	△10億8,100万円	3億6,400万円

区分	令和2年度	令和元年度	比較増減
一般会計繰入金	15億9,200万円	14億700万円	1億8,500万円
通常分	14億6,500万円	14億700万円	5,800万円
新型コロナ対策分	1億2,700万円	-	1億2,700万円
一般会計長期借入金	なし	13億円	皆減
累積欠損金	△119億800万円	△111億9,100万円	△7億1,700万円
不良債務残高	8億8,700万円	10億3,800万円	△1億5,100万円
一般会計長期借入金残高	22億7,600万円	22億7,600万円	-

令和2年度の繰入金は前年度より1億8,500万円増加していますが、うち新型コロナウイルス感染症対策にかかる国の地方創生臨時交付金による対応が1億2,700万円ありました。

※一般会計繰入金通常分に、医師確保対策にかかる経営再建支援補助金として3,200万円が含まれています。

区分	令和2年度	令和元年度	比較増減	
延患者数	入院	66,241人 (181.5人/日)	63,350人 (173.1人/日)	2,891人 (8.4人/日)
	外来	122,474人 (504.0人/日)	135,025人 (560.3人/日)	△12,551人 (△56.3人/日)
病床利用率	一般	67.9%	63.4%	4.5ポイント
	精神	79.5%	44.5%	35.0ポイント
	全体	69.5%	59.5%	10.0ポイント

【病床利用率は休止病床を除いて計算しています】

※令和元年11月から一般病床237床(△41床)

※令和2年4月から一般病床224床(△13床)、精神病床37床(△12床)

